

1948年に軍隊を廃止。軍事予算を社会福祉に充て
国民の幸福度を最大化する道を選んだ
コスタリカの奇跡に迫ったドキュメンタリー。

コスタリカは1948年に軍隊を廃止しました。あのキナ臭い中南米に在りながら……。そして、軍事予算を社会福祉に充て、医療を原則無償化し学校を充実させました。国民が幸福度を高めることを選んだ国です。どうしてそんなことができたのでしょうか。

たくさんの方から「知りたい」というご要望をいただいて、この上映会を企画しました。ぜひおいでください。

積極的平和国家のつくり方

コスタリカ の奇跡

A BOLD PEACE

監督／プロデューサー：マシュー・エディー、マイケル・ドレリング 制作：ソウル・フォース・メディア 制作協力：スパイラル・ピクチャーズ
配給：ユナイテッドピープル 2016年／アメリカ・コスタリカ／90分



地球幸福度 (HPI) 世界ランキングナンバーワンの小国コスタリカの勇気ある実践!!

2/22 (金) 上映14:00 (開場13:30)

鑑賞券 1,000円 (できるだけ前売りをご利用ください)

■主催：河合九条の会

河合町 まほろばホール

河合町高塚台1丁目8番 電話 0745-72-1100

● 問い合わせ先：電話 0745-72-0632
mail: j-takakuwa@maia.eonet.ne.jp (高桑次郎)

■推せん・メッセージ

中野 晃一（政治学者・上智大学国際教養学部教授）

『コスタリカの奇跡』に多大なインスピレーションをもらいました。この『奇跡』は偶然や幸運の産物ではなく、知性と勇気のある人たちの取り組みが生み、育んできているものだからです。政治を変えて、平和を築き守るのは私たち一人に掛かっています。

渡辺 一枝（作家）

私たちがめざしたい道、方向。困難な道であってもこのようにして立っている国があることに希望をみます。

断片的にしか知らなかったコスタリカを、なお知ることができました。幾度も噛みしめるように見たい映画です。

松元 ヒロ（コメディアン）

奇跡だけど現実なのです。理想を現実にした国があるのです。軍隊をなくしたのです。約70年それを続けてきたコスタリカの人々の自信と誇りと、その喜びがスクリーンから伝わってきます。「軍隊は過去のもので。戦争は病気で平和が普通なのです」の言葉がこんなに説得力をもつのだ……と感動しました。「理想と現実が違う」と平和憲法をたった70年で変えようとしている人たちにこそ、観てほしい映画です。

小森 陽一（東京大学文芸学院教授・「九条の会」事務局長）

安倍改憲がすすめられようとしているこの国で、戦争しない憲法を持つことの意味を、しっかり考え抜き、行動にうつすために、ぜひ多くの方たちに見ていただきたい映画です。「3000万人署名」を実践する際の対話に役立てたいと実感しています。

安田 菜津紀（フォトジャーナリスト）「武器のお金がすべて、教育に使われればいいのに」。戦乱を逃れたシリアの友人の言葉が思い出される。この映画が物語るように、非武装への道のりは時に困難を極める。それでも掲げ続けた理想はいつか、人々の心の礎となるのだ。

推せんします（敬称略）：アーサー・ピナード（詩人）、伊藤真（弁護士・「伊藤塾」塾長）、堀尾輝久（教育学者、「9条地球憲章の会」代表世話人）



☆☆☆ 平和が文化となった国、理想を現実にした国コスタリカ —— 珠玉の言葉が、深い感動をよぶ!! ☆☆☆

解説……世界には軍隊なしで国の平和を保ってきた国々がある。そんな数少ない国の一つで、1948年に常備軍を解体した国が中米のコスタリカだ。コスタリカは軍事予算をゼロにして無料の教育、無料の医療を実現し、環境のために国家予算を振り分けてきた。その結果、地球の健全性や人々の幸福度、そして健康を図る指標「地球幸福度指数（HPI）2016」の世界ランキングにおいて、140ヶ国中で世界一に輝いているのがコスタリカである。また、中南米で最も安全とされている国でもある。

本作は、1948年から1949年にかけて行われた軍隊廃止の流れを追いながら、コスタリカが教育、医療、環境にどのように投資していったのかを詳しく説明する。米国では公的債務、医療、そして軍事費が日増しに増大していることは対照的だ。

映画には軍隊廃止を宣言したホセ・フィゲレスや、ノーベル平和賞を受賞したオスカル・アリアスなどの元大統領、イラク戦争に賛同した当時の大統領を憲法違反で訴えたロベルト・サモラ弁護士、ほかジャーナリストや学者が登場し、世界がモデルにすべきコスタリカの壮大で意欲的な国家プロジェクトが、珠玉の証言によって明らかにされる。

湯川 れい子（音楽評論家・作詞家）

この映画を見ていると、非武装は決して非現実的な空想ではなく、子どもを戦争に盗られたくない、二度とあの悲惨な戦争を味わいたくないと願う人々の夢が、現実的な努力と知性、あきらめない教育によってもたらされる現実の果実だということが解ります。なんと美しい、素晴らしい現実でしょう。国民の感性、知性、豊かな自然環境と憲法9条を持って、『コスタリカの奇跡』を、ぜひ日本の奇跡にしたいものです。自主上映の輪を広げていきましょう！

望月衣塑子（東京新聞記者）

日本国憲法9条とコスタリカの平和憲法がほぼ同時期に生まれていたことを、映画を通じて初めて知った。この歴史的な偶然と必然を知り、ただただ感動せずにはいられなかった。コスタリカは、アメリカに再三、再軍備化を要求されながらも、拒否を続け、軍隊のない平和国家の礎を築いた。軍備を持たない国であり続けるには、人類にとって平和とは何か、人類はどの方向に突き進むべきかを、絶えず考え、問い直す作業が必要だ。この映画は現在を生きる私たちに、いま何を未来のために問うべきかを、改めて考える貴重な時間を与えてくれた。

清水 雅彦（日本体育大学教授・憲法学、「九条の会」世話人）

これは大変わかりやすい映画ですね。軍隊がないことでいかに福祉と教育が充実したのかという現状を伝えた上で、武力革命・内戦終結後の1948年に軍隊をなくし、1980年代のアメリカによる圧力や2010年代のニカラグア軍による侵入をどうやって切り抜けたか、そして近年の格差とグローバル化、麻薬戦争にどう立ち向かっているかまで、「軍隊のない国家」＝コスタリカの苦闘の歴史を学ぶことができます。



■『コスタリカの奇跡』大特集
一、完全採録シナリオ、コスタリカ入門
落合恵子、アーサー・ピナード、小森陽

▲シネ・フロント別冊38号 本体800円+税